# 学校法人五島育英会 学校評価(自己評価)制度 2023 年度 実施計画書

学校名	東京都市大学等々力中学校・高等学校
校(園)長名	原田 豊

### 1. 第2期事業計画期間の教育目標

- (1)等々力中高改革の最後の仕上げと新たな大改革への準備という意識を明確に持って職務に当たる。
- (2) 五島慶太先生の熱誠とノブレス・オブリージュの教育を個々の教職員が教育活動全般に広く活用できるようにする。
- (3) AL 活動はいわゆる「TOK」的な活動を ICT と関連付けて実践できるようにする。また、ロイロノートを中心としたアプリの熟達を図る。
- (4)インターナショナル校や IB 校などと従来の枠を超えた交流やカリキュラムの交換などを大胆に模索し、本校の一層の飛躍の基盤を構築する。
- (5) 真の国際教育は「良き日本人の育成」であり、国語や伝統文化の教育の充実に向け具体的なプログラムを実践する。
- (6) 進学校の評価を盤石にすると同時に海外大学進学に向けた具体的な取り組みを実施する。
- (7) 良き教育は良き教員の育成でありそのための環境の改善と研修の充実を具体的に進める。

#### 2. 指標(目標)とする学校

# ① ラグビー校

自律の精神、文武両道、フェアプレーとノブレス・オブリージュの精神等、本校の改革時以来の目標校

- ② それぞれ地域の競合校、注目される改革実践校として意識している。その他の学校で目標としている学校はない。
- 3. 第2期事業計画達成のための重点目標・重点課題及び2025年度達成目標

重点目標	重点課題及び 2025 年度達成目標
I 良質な教育の実践	① 魅力ある教育プログラムの開発・実践
	1. メタ認知能力向上が教育目標との意識が共有される。
	2. ICT の活用による AL 授業が計画的に行われ、ルーブリック等の評価も完成して
	いる。
	3. 発問の質の向上が図られている。
	4. ポートフォリオ化が完成している。
	5. 教科横断的授業が行われている。
	② サポート体制の充実
	1. 国公立大学合格を基本とした進学指導体制の確立
	2. 海外大学合格実績の向上
	3. 質の高いキャリア教育の実施
	4. 生活指導の質的向上
	5. 防災安全指導の充実
	③ 教職員の人材育成・資質向上
	1. 計画的な教員研修の実施
	2. いじめ対策の等々力スタイルが完成している。
	3. 発達障害や自傷自殺予防に関する指導の等々力スタイルが完成している。
	④-1 ICT を利用した教育計画
	1. 生徒カルテの作成

	2. クラウド等のシステムの活用
	3. e-ポートフォリオの完成
	4. ICT を利用した新しい学習支援システムの構築
	<b>④-2 国際化計画</b>
	1. 現在の8種の国際交流事業の促進
	2. 新規交流事業の促進
Ⅱ グループ間連携の深	各学校の連携強化
化·拡大	1. 都市大学生の支援要請
	2. 文化講演会の講師依頼
Ⅲ 教育環境の整備・充実	学習環境の整備・充実
	1. 等々力プロジェクトでの討議
	効率的業務の推進
	1. 教務支援員の活用促進
	2. 部活動支援員の活用模索

## 4. 本年度の施策内容(達成目標)及び具体的な取り組み内容

4. 本年度の施策内容(達成目標)	及び具体的な取り組み内容	
重点目標I 良質な教育の実践		
重点課題① 魅力ある教育プログラムの開発・実践		
本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点
	[ICT 推進委]	[ICT 推進委]
①等々力第 4 回 ICT フェアの開	①TOK 的な解のない問い、反転授業、ジグソーなど、	①ICT フェアが計画通
催	「深い学びと ICT」をテーマに実施計画を早期に決	りに開催できた。ま
	める。	た概要を冊子化し、
		予算措置ができれば
		広報に使う。ビデオ
		化も考える。
②ロイロ認定教員の倍増	②ロイロ認定校の指定を受け、昨年度に続きさらに 15	②ロイロ認定教師の
	名の認定教師を輩出する。その効果を分かり易く広	追加承認が目標数に
	報する。	達した。
	[模擬国連活動委]	[模擬国連活動委]
③模擬国連活動の推進	③大妻大会(6月)、AJEMUN(8月)、全日本大会	③-1 目標通りに各大
	(秋)、渋幕大会(3月) に参加する。	会に参加できた。
	AJEMUN での受賞,全日本大会の本選出場を目指す。	③-2 AJEMUN で受賞
	過去の模擬国連大会出場者数の推移を提示する。	し、全日本大会の本
	学年や国際教育室と調整して、S特や帰国生のαク	選に出場できた。
	ラスの生徒の集会を開き、模擬国連の意義等を強	③-3 具体的に、どの
	調する。	ような工夫・取り組
		みを実施したかを示
		す。概要を広報用に
		冊子化することも考
		える。
重点課題② サポート体制の充実		
本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点
	[国際教育室]	[国際教育室]
①英語4技能強化に向けたイン	①-1 インディゴ研修:23年から計画を動かしてい	①-1 プログラムの実
ディゴ研修及び新たなアプリの	く。(ただし、今後もコロナの影響による)	施。実施後は参加者
検討	[学習支援S委・学年会]	によるアンケートを
	①-2 新アプリ mikan を導入する。4月に各学年の実	行いプログラムの検
	施要項を配信し円滑な運営を図る。新システムの	証を行う。

	ため合格点の変更など柔軟に対応する。スタディサプリ English もシステム Z に組み込み、4 技能を強化する。目標英検級の取得率を数値化する。	[学習支援S委・学年 会] ①-2 早期に目標値を 設定する。昨年度の 取得率から 5%~10% 高で設定する。 [行事委]
   ②防災・安全に関する教員研修	[11] 事安]   ②校舎の構造上の特徴等を法人の関係部署と相談し	(2)各種マニュアルの
計画・生徒教育計画の策定	ながら、防災・安全対策を再考する。また、各種マ	周知の状況による。
	ニュアルを周知する。	
重点課題③教職員の人材育成・		T
本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点
①いじめ対応に関するスキルの 向上	[生徒活動委・学年会] ①学年団による組織的な対応により早期の発見を徹底し、状況の確認や周囲への事実確認から当事者への聞き取り・処置まで迅速でなければならないことを徹底する。	[生徒活動委・学年 会] ①学年団による組織 的な対応により、い じめ問題が解決でき ている。
②発達障害傾向の生徒に対する 対応能力の向上	②-1 ソーシャルスキルトレーニング(SST)の取り組みなどを検討し研修等の具体的な施策を講じる。 ②-2「ひだまり」(本校カウンセリングルーム)の校内巡回を実施し発達障害傾向の生徒を早期に発見し、組織的な対応を考える。	②発達障害傾向の生 徒に向けた適切な支 援方法に関する配信 が適切に行われた。 SST の手法が紹介され 多くの教員に共有さ れている。巡回が適 宜行われている。
③ I C T の活用の深化	①②生徒活動委員会において、懸案の本校事例集を作成する。各学年の①②に相当する事件の報告の際に、問題行動報告書の簡易版を作成し、それによって報告させる。事例を積み上げていくことこそ教員生徒指導力の向上に直接につながる。 [教育管理委・ICT 推進委] ③-1 第4回 ICT フェアによって定着を確実にする。ICT の活用が「深い学び」に繋がっていることを各教員の視点で審査する。(ICT を活用したことで生徒がどう変わったかという視点の考察をする。)また、ロイロ認定教師を新たに15名輩出する。(再掲)	①②本校の事例集ができた。  「教育管理委・ICT推進委」 ③第4回ICTフェアにおいて全教員がその準備及び模擬授業などを経て、昨年度より「深い学び」への言及がある。ロイロ認定教師が目標数に達した。(再
	③-2 ロイロ等の研修及び ICT 授業の公開化を積極的 に呼びかける。	掲) ③-2 研修及び活動計 画を提示し、その通 りに実施する。ま た、小冊子化を考え て報告する。

本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点
个一尺07/2007 1 <del>日</del> (建次日保/	「学習支援システム委・学年会」	「学習支援システム
①システム Z の活用の充実	【子首又伝ンヘノム安・子十云]   ①スタディサプリの「到達度テスト」を行事日程に	[子育文仮シヘノム   委・学年会]
シィヘノ 4 6 4 715円47冗夫		· · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	入れ、テスト実施後の「連動型課題」の生徒への	①学校戦略会議、学
	配信方法を学習支援S委で共有し、全学年統一し	習支援S委で確認す
	た指導が行える体制にする。生徒のボトムアップ に資する。	る。
	[教育管理委・教科主任会・ICT 推進委]	[教育管理委・教科主
②ICT 活用の促進	②-1 TOK 的な解のない問いや反転授業、ジグソー法な	任会]
	どと ICT(ロイロノート)の活用とを組み合わせた公	②-1 専任教員全員が
	開授業を、全教員年間1回は実施する。その実施運	公開授業を実施し、
	営について具体的に教育管理委と教科主任会とで	報告書を冊子化す
	決定する。	る。広報への活用も
		考える。
		~~~。   「ICT 推進委・学年会
	   ②-2 ロイロ認定教師を新たに 15 名輩出する。(再掲)	[10] 推進安・子平云   ②-2 ロイロ認定教師
	@ 4 円4 円配足採卵を材だに 10 泊筆出 9 つ。(冉掲) 	
		が 15 名の目標を達成
		できた。(再掲)
	②-3 ポートフォリオを学年ごとに推進する。	②-3 行事のたびにポ
		ートフォリオへの入
		力を促す。
重点課題4一2 国際化計画		
本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容	評価の観点
	[国際教育室]	[国際教育室]
D外部団体を活用したより発展	①-1 恒常的な留学生の受け入れ事業を実現する。	 ①-1 米国アーラム大
的な教育プログラムの継続実施		   学との交流を開始す
		T C V / X 1/11 (L 1/11/21)
及び開発・研究		
及び開発・研究	①-2 TFD Fd (Technology Entertainment Design)の	る。
及び開発・研究	①-2 TED Ed (Technology Entertainment Design)の 注用のプログラム化(シラバス化)をする	る。 ①-2 授業と連携した
及び開発・研究	①-2 TED Ed (Technology Entertainment Design)の 活用のプログラム化(シラバス化)をする。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。 ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユ	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。 ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャ	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。 ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフロー
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャ	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末ま
及び開発・研究	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャ	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフロー
	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末ま
重点目標Ⅱ グループ間連携の深	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末ま
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末ま
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  化・拡大	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末ま でに完成する。
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化 本年度の施策内容(達成目標)	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  ②化・拡大  具体的な取り組み内容  [行事委]	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末ま でに完成する。  評価の観点 [行事委]
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化 本年度の施策内容(達成目標) ②東京都市大学との連携プログ	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  化・拡大  具体的な取り組み内容  [行事委] ①引き続き「メンター制度」や「GL 講座」での高大	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見える化する。 ①-3 9月の発表と年度末のプロジェクトの絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導のための新しいフローチャートを7月末までに完成する。 <b>評価の観点</b> [行事委] ①「メンター制度」
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化 本年度の施策内容(達成目標) ②東京都市大学との連携プログ	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  ②化・拡大  具体的な取り組み内容  [行事委]	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末までに完成する。 <b>評価の観点</b> [行事委] ①「メンター制度」 「GL講座」の実施の
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化 本年度の施策内容(達成目標) ②東京都市大学との連携プログ	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  化・拡大  具体的な取り組み内容  [行事委] ①引き続き「メンター制度」や「GL 講座」での高大連携プログラムを拡充する。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを 7 月末までに完成する。  評価の観点 [行事委] ①「メンター制度」 「GL講座」の実施の 状況による。
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化 本年度の施策内容(達成目標) ②東京都市大学との連携プログ ラムの継続実施	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  化・拡大  具体的な取り組み内容  [行事委] ①引き続き「メンター制度」や「GL 講座」での高大連携プログラムを拡充する。  [理科]	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9 月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフ月末 でに完成する。 <b>評価の観点</b> [行事委] ①「メンター制度」 「GL講座」の実施の 状況による。 [理科]
<ul><li>更点目標Ⅱ グループ間連携の深重点課題 各学校の連携強化</li><li>本年度の施策内容(達成目標)</li><li>②東京都市大学との連携プログラムの継続実施</li><li>②二子幼稚園との科学教室の継</li></ul>	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  化・拡大  具体的な取り組み内容  [行事委] ①引き続き「メンター制度」や「GL 講座」での高大連携プログラムを拡充する。	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末までに完成する。  評価の観点 [行事委] ①「メンター制度」 「GL講座」の実施の 状況による。
重点目標Ⅱ グループ間連携の深 重点課題 各学校の連携強化 本年度の施策内容(達成目標) ②東京都市大学との連携プログ ラムの継続実施	活用のプログラム化(シラバス化)をする。  ①-3 アートマイルプロジェクトとしてベルギーのユネスコスクールと国際協働学習に参加する。  ①-4 帰国生の指導のための新しい指導のフローチャートを完成させる。  化・拡大  具体的な取り組み内容  [行事委] ①引き続き「メンター制度」や「GL 講座」での高大連携プログラムを拡充する。  [理科]	る。 ①-2 授業と連携した TED Ed の利用を見え る化する。 ①-3 9月の発表と年 度末のプロジェクト の絵画を完成する。 ①-4 帰国生の指導の ための新しいフロー チャートを7月末ま でに完成する。 <b>評価の観点</b> [行事委] ①「メンター制度」 「GL 講座」の実施の 状況による。 [理科]

第一点 では、		「生徒活動委〕	[生徒活動委]
による指導が多くの部活動で行われている。 を直目機図 教育環境の整備・充実 本年度の施策内容 達成目標	②郊汗動の練習に教古卡の学生	- · · · · · · · · · · · · · ·	
2。	0		
■点目標Ⅲ 教育環境の整備・充実  ■点課題 学習環境の整備・充実  本年度の施策内容(達成目標) ①法人と連携しつつ、時期を考えて広範が刺職員の意見をまとめながら確かすいく。 恵見をまとめながら進めていく。  重点課題 効率的業務の推進  本年度の施策内容(達成目標) ①教務支援員の潮締部2階 ②解活動支援員に関する業務内容、生徒への指導内 名、教員との関係性などの要項を作政する。 第2条 企業務の効率 化の満支や教員の名 がに近ばできた。 ②解活動支援員配置に向けた取 名、教員との関係性などの要項を作政する。 名室部活動支援員配置に向けた取 名、教員との関係性などの要項を作政する。 名室部活動の選定を創織する。 名室部活動の選定を創織する。 名室部活動が選定を創織する。 第2条 企業務の対率 について確立できた。 「ICT 総合郷略室」 ②生徒カルテ(仮称)の仮モデルが投長に提示できている状況を作っていく。 ②生徒カルテ(仮称)の仮モデルが投長に提示できている状況を作っていく。  第2条 体の施策内容(達成目標) 具体的な取り組み内容 評価の観点 「人が管理委員 (人が管理委員) (人が管理委員) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (上述管理委員) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (本社の制度 (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (本社の制度 (人が管理を含まれ、教員の使い方に関する。) (本社の制度 (本社の制			
■点課題 学習環境の整備・充実     本年度の施策内容(達成目標) ①法人と連携しつつ、時期を考えて広範な教職員の 意見をまとめながら進めていく。	. ,		ິ √
3年度の施策内容 (達成目標)			
<ul> <li>①施設設備の整備に向けた検討</li></ul>			証価の組占
	1 100 100 100 100 100 100	7 11111 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
東高課題 効率的業務の推進     本年度の施策内容(達成目標)     「教師・学年部長)     ①教務支援員の継続配置     ②部活動支援員に関する業務内容、生徒への指導内容、教員との関係性かどの要項を作成する。     希望部長の地流のが企進     ②部活動支援員配置に向けた取り組みの控進     ②部活動支援員に関する業務内容、生徒への指導内容、教員との関係性かどの要項を作成する。     希望部活動の選定を継続する。     希望部活動の選定を継続する。     『ICT 総合戦略室』     ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できた。     ②生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できたいる状況を作っていく。     『ICT 総合戦略室』     ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できた。     「ICT 総合戦略室』     ③生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示できた。     「ICT 総合戦略室」     ③生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示できたいる状況を作っていく。     「ICT 総合戦略室」     ③生徒カルテ (原本) が確定され、教員の使い方に関する検討が反映できた。     「ICT 総合戦略室」     「D・2 大学連挙表記れた。     「中の観点     「D・2 大学連挙表記れた。     「中の規定との対面で保護者説問合が実施された。とまでは計画を提示する。     ②よりの名とに対策を述れ、検索公開のまとが、検索公開のまとが、反応といるを発表した。とまでは対策を定した。     日前で、②まで発酵者2,000名を自指す。     ③サテライト戦略     ③サテライト戦略     ③サテライト戦略     ③サテライト戦略を記述したの制金を記述した。     通路指導     本年度の施策内容(達成目標)     『神の観点     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学部・進路委」     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学習・進路委」     「学者・進路委」     「学者・進路委」     「学者・進路委」     「学者・進路委」     「学者・進路委」     「学者・進路委員			
重点課題 効率的業務の推進		ぶ元とよといながり延りてv へ。	
本年度の施策内容 (達成目標)   具体的な取り組み内容   評価の観点     教頭・学年民   ①教務支援員の総納価置   ②前活動支援員に関する業務内容、生徒への指導内   名 教員との関係性などの要項を作成する。   名 教員との関係性などの要項を作成する。   名 教員との関係性などの要項を作成する。   名 教員との関係性などの要項を作成する。   名 教員との関係性などの要項を作成する。   名 教員との関係性などの要項を作成する。   名 教員との関わりについて確立できた。   ②生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できた。   ②生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できた。   [ICT 総合戦略室]   ③生徒カルテ (原 家) が策定され、教員の使い方に関する   検討が反映できた。   「入試管理委]   ① 大手墊の保護者訪問会を再開する。   ① 上 大手墊の保護者訪問会を再開する。   ① 上 大手墊の保護者訪問会を再開する。   ① 上 内 会 大変の対面での保護者   ② 上 大手型の保護者   ② 上 大手型の保護者   ② 上 大学通信・各 聖会験	   重占課題 - 効率的業務の推進	<u> </u>	のなが、27人は17 20
①教務支援員の継続配置		旦体的な取り組み内容	評価の観点
①教務支援員の半納強配置	中,一次60%的一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个一个		
②部活動支援員配置に向けた取り組みの推進  ②部活動支援員に関する業務内容、生徒への指導内容、教員との関係性などの要項を作成する。 希望部活動の選定を継続する。  ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できた。 [ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できれた。 (ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できれた。 (ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示できれた。 (ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示できれた。 (ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示できれた。 (ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (原案) が策定され、教員の使い方に関する、検討が反映できた。  第集広報活動  本年度の施策内容(達成目標) (人試管理委) (ル大管理委) (ル大学・SAPIX 等の対面での保護者訪問会を再開する。 (ア・シールできた。2)実受験者教 (2)に、特によいで有効にアビールできた。2)実受験者2,000名を自指す。 (3)サテライト戦略 (3)サテライト戦略 (3)サテライト戦略 (3)サテライト戦略 (3)サテライト戦略を三田または新橋を三田または新橋を三田または新橋を三加して実施した。 (正路指導 本年度の施策内容(達成目標) (学習・進路長) (ア・運路を)	   ①数発支援員の継続配置		20.21
②部活動支援員配置に向けた取り組みの推進			
②部活動支援員配置に向けた取り組みの推進 2部活動支援員に関する業務内容、生徒への指導内容、教員との関係性などの要項を作成する。 希望部活動の選定を継続する。 名望部活動の選定を継続する。 名望部活動の関わりについて確立できた。 [ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できている状況を作っていく。 第単症 大学 (仮称) の仮モデルが校長に提示できないる状況を作っていく。 第本年度の施策内容(達成目標)			
②部活動支援員配置に向けた取			
第組みの推進	②部活動支援昌和署に向けた助	②部活動支援員に関する業務内容 生徒への均道内	, ,
番望部活動の選定を継続する。			
②生徒カルテ (仮称) の仮モデルが投長に提示できた。 [ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが投長に提示できた。 (ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが投長に提示できない。 ②生徒カルテ (原案) が策定され、教員の使い方に関する検討が反映できた。    (日本 できた。)	ノルロックペン1日XE		
③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できた。 [ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できた。 [ICT 総合戦略室] ③生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示できている状況を作っていく。 第集広報活動 本年度の施策内容 (達成目標) 具体的な取り組み内容 評価の観点 [入試管理委] ①上大手塾の保護者訪問会を再開する。 ①上2大学進学実績を大きくアビールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、G.講座など広報活動を再度検討し、6月までに計画を提示する。 ②東受験者数 ②1,809 名 (2019 年度) / 1,811 名 (2020 年度) ⇒ 1,804 名 (2023 年)のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を目指す。 ③サテライト戦略 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。  進路指導 本年度の施策内容 (達成目標) 具体的な取り組み内容 評価の観点 [学習・進路委]		和主的自動でを定で心がする。	
(ICT 総合戦略室) (ICT 総合戦略室) (3生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示でき ている状況を作っていく。 (ICT 総合戦略室) (3生徒カルテ (原 案) が策定され、教員の使い方に関する 検討が反映できた。			
③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示でき (3)生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示でき (3)生徒カルテ (原称) の仮モデルが校長に提示でき (3)生徒カルテ (原案) が策定され、教員の使い方に関する 検討が反映できた。			
③生徒カルテ (仮称) の仮モデルが校長に提示できている状況を作っていく。  第集広報活動 本年度の施策内容 (達成目標)  【入試管理委】 ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。 ②上を対している状況を作っている。  ②上を対している状況を作っている。  ②上を対している状況を作っている。  ②上を対している状況を作っている。  ②上を対している状況を作っている。  ②上を対している状況を作っている。 ②上のできた。  ②上のできた。  ②上のできた。 ②上のできた。 ②上のできた。 ②上のできた。 ②上のできた。 ②上のできた。 ②上のできた。 ③上のでは、「のつきに関する。 ③上のでは、「のつきに関する。」のしていましている。また、「CT フェア、模様国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②上のできた。 ②上のできた。 ②上のでは、「のつきに対している。また、「CT フェア、模様国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②上のできた。 ②実受験者数  ②上のできた。 ②上のでは、「のつきに対している。 ②に計画を提示する。 ②に計画を提示する。 ②に計画を提示する。 ②に計画を提示する。 ②に計画を提示する。 ②に計画を提示する。 ②実受験者 2,000 名を目指す。 ③サテライト戦略 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。  進路指導 本年度の施策内容(達成目標)  【学習・進路委】  『学習・進路委】  『学習・進路委】		「ICT 総合能収室]	9
アンタック (東京 ) でいる状況を作っていく。	③生徒カルテ(仮称)の仮モデ		_ , , , , , , , _
景集広報活動			
換計が反映できた。    検討が反映できた。		ている性況を作っていく	安) が第定され 数
事集広報活動		ている状況を作っていく。	
本年度の施策内容(達成目標)   具体的な取り組み内容   評価の観点   [入試管理委]		ている状況を作っていく。	員の使い方に関する
①広報戦略  ①上1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ②上2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT フェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809 名 (2019 年度) / 1,811 名 (2020 年度) ⇒1,804名(2023 年)のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を目指す。 ③サテライト戦略  ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。  進路指導  本年度の施策内容(達成目標)  具体的な取り組み内容  評価の観点  「学習・進路委」  「入試管理委」 ①上1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者訪問会が実施された。 ②上、学進学実績を大学通信・各塾受験雑誌ほかで有効にアピールできた。②実受験者 2,000 名を宣成した。  ②実受験者 2,000 名を宣成した。  第サテライト戦略  『実理・選挙表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	ル作成	ている状況を作っていく。	員の使い方に関する
① □ 大手塾の保護者訪問会を再開する。 ① □ 1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施された。 ① □ 2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT フェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ② 実受験者数 ② 1,809 名 (2019 年度) / 1,811 名 (2020 年度) ⇒ 1,804 名 (2023 年)のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を目指す。 ③ サテライト戦略 ③ 昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋・されかを追加する)。	ル作成 募集広報活動		員の使い方に関する 検討が反映できた。
第の対面での保護者 訪問会が実施された。	ル作成 <b>募集広報活動</b>	具体的な取り組み内容	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点
プー2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT た。	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	<b>具体的な取り組み内容</b> [入試管理委]	員の使い方に関する 検討が反映できた。 <b>評価の観点</b> [入試管理委]
(1)-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT フェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開の 大学通信・各塾受験 まとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月ま でに計画を提示する。 21,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804 名(2023年)のため 2024年度は実受験者 2,000名を 目指す。 3)サテライト戦略 3)昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に 地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋い ずれかを追加する)。 3)サテライト説明会 を三田または新橋を 追加して実施した。 2 進路指導 本年度の施策内容(達成目標) 具体的な取り組み内容 評価の観点 [学習・進路委]	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	<b>具体的な取り組み内容</b> [入試管理委]	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX
①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT フェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開の まとめ、GL講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にアビールできた。②実受験者数②1,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804名(2023年)のため 2024年度は実受験者 2,000名を目指す。②実受験者 2,000名を目指す。③サテライト戦略③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。③サテライト説明会を三田または新橋を連加して実施した。進路指導集体的な取り組み内容評価の観点①国公立 88[学習・進路委]	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	<b>具体的な取り組み内容</b> [入試管理委]	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者
フェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開の まとめ、GL講座など広報活動を再度検討し、6月までに計画を提示する。 21,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804名(2023年)のため2024年度は実受験者2,000名を目指す。 3サテライト戦略 3昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。 2ま受験者2,000名を連成した。 3サテライト説明会を正田または新橋をずれかを追加する)。 2ま受験者2,000名を連成した。 2ま受験者2,000名を連成した。 2ま受験者2,000名を連成した。 2までは対析を連加した。 2までは対析を対して実施した。 2までは対析をでは対して実施した。 2までは対抗をでは対して実施して実施した。 2までは対抗をでは対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対して対抗を対抗を対抗を対して対抗を対抗を対抗を対して対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対抗を対	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	<b>具体的な取り組み内容</b> [入試管理委]	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され
まとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804名(2023年)のため2024年度は実受験者2,000名を目指す。 ③サテライト戦略 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。  進路指導 本年度の施策内容(達成目標) 具体的な取り組み内容  「学習・進路委」 「学習・進路委」 「学習・進路委」	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容 [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。
でに計画を提示する。 ②1,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804 名(2023年)のため2024年度は実受験者2,000名を 目指す。 ③サテライト戦略 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に 地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋い ずれかを追加する)。  進路指導 本年度の施策内容(達成目標) 具体的な取り組み内容  「学習・進路委」 「学習・進路委」 「学習・進路委」  ピールできた。 ②実受験者2,000名 を達成した。 ②サテライト説明会 を三田または新橋を 追加して実施した。  評価の観点 「学習・進路委」	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容 [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。 ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を
②実受験者数	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容 [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開の	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験
名(2023 年) のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を 目指す。を達成した。③サテライト戦略③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に 地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋い ずれかを追加する)。③サテライト説明会 を三田または新橋を 追加して実施した。進路指導具体的な取り組み内容評価の観点①国公立 88[学習・進路委][学習・進路委]	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標)	具体的な取り組み内容 [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL講座など広報活動を再度検討し、6月ま	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア
③サテライト戦略目指す。 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に 地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋い ずれかを追加する)。③サテライト説明会 を三田または新橋を 追加して実施した。進路指導具体的な取り組み内容評価の観点①国公立 88[学習・進路委][学習・進路委]	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標) ①広報戦略	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL講座など広報活動を再度検討し、6月までに計画を提示する。	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。
③サテライト戦略③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に 地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋い ずれかを追加する)。③サテライト説明会 を三田または新橋を 追加して実施した。進路指導本年度の施策内容(達成目標)具体的な取り組み内容評価の観点①国公立 88[学習・進路委][学習・進路委]	ル作成 募集広報活動 本年度の施策内容(達成目標) ①広報戦略	具体的な取り組み内容 [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT フェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809 名 (2019 年度) /1,811 名 (2020 年度) ⇒1,804	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名
地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。       を三田または新橋を追加して実施した。         進路指導       本年度の施策内容(達成目標)       具体的な取り組み内容       評価の観点         ①国公立88       [学習・進路委]       [学習・進路委]	京集広報活動 本年度の施策内容(達成目標) ①広報戦略	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804名(2023年)のため2024年度は実受験者2,000名を	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名
進路指導其体的な取り組み内容評価の観点①国公立 88[学習・進路委][学習・進路委]	<ul><li>み集広報活動</li><li>本年度の施策内容(達成目標)</li><li>①広報戦略</li><li>②実受験者数</li></ul>	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804名(2023年)のため2024年度は実受験者2,000名を目指す。	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名 を達成した。
進路指導具体的な取り組み内容評価の観点①国公立 88[学習・進路委][学習・進路委]	夢集広報活動 本年度の施策内容(達成目標) ①広報戦略 ②実受験者数	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809名(2019年度)/1,811名(2020年度)⇒1,804名(2023年)のため2024年度は実受験者2,000名を目指す。 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名 を達成した。 ③サテライト説明会
本年度の施策内容(達成目標)具体的な取り組み内容評価の観点①国公立 88[学習・進路委][学習・進路委]	夢集広報活動 本年度の施策内容(達成目標) ①広報戦略 ②実受験者数	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809 名 (2019 年度) / 1,811 名 (2020 年度) ⇒ 1,804 名 (2023 年)のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を目指す。 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋い	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施された。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名 を達成した。 ③サテライト説明会 を三田または新橋を
①国公立 88       [学習・進路委]         [学習・進路委]	募集広報活動         本年度の施策内容(達成目標)         ①広報戦略         ②実受験者数         ③サテライト戦略	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809 名 (2019 年度) / 1,811 名 (2020 年度) ⇒ 1,804 名 (2023 年)のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を目指す。 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋い	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点 [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施された。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名 を達成した。 ③サテライト説明会 を三田または新橋を
11 + 12 22 - 10 + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10   + 10	募集広報活動         本年度の施策内容(達成目標)         ①広報戦略         ②実受験者数         ③サテライト戦略         進路指導	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICT フェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809 名 (2019 年度) / 1,811 名 (2020 年度) ⇒ 1,804 名 (2023 年) のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を目指す。 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点  [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施された。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名 を達成した。  ③サテライト説明会 を三田または新橋を 追加して実施した。
旧帝大レベルで10、首都圏で ・進路部長が毎回、高3学年会に出席する。 ・達成目標の①②③	募集広報活動         本年度の施策内容 (達成目標)         ①広報戦略         ②実受験者数         ③サテライト戦略         進路指導         本年度の施策内容 (達成目標)	具体的な取り組み内容  [入試管理委] ①-1 大手塾の保護者訪問会を再開する。  ①-2 大学進学実績を大きくアピールする。また、ICTフェア、模擬国連、自習室、研究論文、授業公開のまとめ、GL 講座など広報活動を再度検討し、6 月までに計画を提示する。 ②1,809 名(2019 年度)/1,811 名(2020 年度)⇒1,804名(2023 年)のため 2024 年度は実受験者 2,000 名を目指す。 ③昨年度の説明会参加者のデータを作成し分析。更に地域拡大のため一部会場変更を行う(三田か新橋いずれかを追加する)。	員の使い方に関する 検討が反映できた。 評価の観点  [入試管理委] ①-1 四谷大塚・SAPIX 等の対面での保護者 訪問会が実施され た。 ①-2 大学進学実績を 大学通信・各塾受験 雑誌ほかで有効にア ピールできた。 ②実受験者 2,000 名 を達成した。  ③サテライト説明会 を三田または新橋を 追加して実施した。

40 ②早慶上理 ICU で 155(早慶で 50) ③GMARCHで 460	・適時、進路集会を実施する。例えば、4月のオリエンテーション期間に全体会、1学期中にコース別集会、夏季休業前に全体会を実施する。2学期も10月模試の直前、2学期末に、更に3学期初にも全体会を実施する。 ・学年全体の目標数値を、各クラスの目標数値に落とし込む。その上で進路部長と各担任との出願マッチング面談(クラス目標数に対する戦術の確認)を5月に、また、共通テスト後の国公立出願時(1月18日)に出願マッチング会議(各生徒の国公立大学の出願先を、高3学年全員で検討する学年会議)を実施する。	は、ともに目標の数値を達成できた。 ・進路集会は、計画通りに実施できた。 ・出願マッチング面談や会議を、計画した時期に、計画した内容で実施できた。
その他学校目標		
本年度の施策内容(達成目標)		評価の観点
[学年別指導プログラム] ①アサーティブな人間関係構築のための指導	[中学1年] ①-11学期のLiPで3回にわたりアサーション・トレーニングを行う。 ①-2行事を活用し、行事を行う際は「目的」だけでなく、その行事でどのような集団に昇華させるかの「目標」をたてさせる。また、行事推進のリーダーは常にアサーティブな関係を意識させ行動させる。具体的なリーダー指導を学年会で共有・徹底させる。	[中学1年] ①スポーツ大会、藍桐祭、合唱コンクールにて「目標」を各クラスで設定し、振り返りまで行う。簡潔な目標から経過・振り返りまでのシートを作成し、各行事のリーダーに配付し
②メタ認知能力向上のための指導	②-1 生徒指導を通じ、生徒をどのように成長させていくかのゴールイメージを持つ。行ったことを自ら振り返りをさせ、教師との問答法により内省し、気づきを与え行動に移させる。 ②-2 TQ ノート・逆算 TQ を活用し、ゴールに対し計画を立て、進捗を確認し、成果から振り返り、何が良かったのか、悪かったのかを導き出し、次に向かう戦略を立て自ら行動させる。	提出をTQノトを付認 で大力を対する。 ②収しこで力を付えを を対してで大力を対する。 を対してで大力をがある。 を対してで大力を を対してで大力を を対して、 を対して、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では

して「できる」にさせる。

有する。

③HR 経営の『学級集団づくりのゼロ段階』を学年会

で説明し、理想の学級集団の状態と目安を学年で共

④-ア スタディサプリの「宿題配信専用講座」を配信

④-イ 弱点分析を行い、生徒には「連動型課題」を配

して取り組ませ、再指導当日には単元テストを実施

③4月当初の学年会で

解説し担任間の目線

④再指導は学期3回

実施し、学習コーチ

ングの形態で自己肯

定感を高める指導を

合わせを行う。

③その他の生徒活動の学年独自

④スタディサプリの活用のため

施策(発達障害・いじめ対応・

ボランティアなどを含む)

の指導

ア. 再指導の形式

イ. 到達度テスト

ウ. スタサプ E の活用	信し、積み残しの解消を図る。さらに3学期の再指	徹底する。講座・課
エ. 進学実績向上のための具体 策	導に活用していく。	題については管理者 は取り組み状況を把 握し、随時確認し都 度生徒を指導する。
⑤mikan 活用のための指導	(5)-1 英検取得が大学入試で有利になることを中1の時から指導していく。 (5)-2 毎週火曜日にテストを実施し、毎日英単語の学習を行う「習慣づけ」と「覚えきる学び」を徹底する。 (5)-3 コーチングでは、英語学習の時間を設け再テストを実施。TQノートを使用し、mikanの学習習慣を確立させる。	⑤英検4級取得を 70%達成できた。
⑥自習室利用促進に向けた指導 ⑦ポートフォリオ計画	⑥4/17~4/19 の 3 日間で全員に自習室の利用法を指導し、利用させる。また月別の利用データを活かし、利用促進を図る。 ⑦逆算 TQ で振り返りをした内容を、ポートフォリオに記録させ、次の定期考査に活用させる。	⑥利用者データを教室掲示し利用促進を強化する。 ⑦ポートフォリオの担当者を決め、定期
		考査終了後の入力、 ルーティン化させ る。
⑧その他の学習・進路指導の学年独自施策(研究論文・対外コンテスト参加促進などを含む)	⑧-1 4 Aplus を学期3回実施し、授業内容の理解度を計り、未到達の領域があればすぐに解決を図っていく。	⑧成績下位層への指導を行い、GTZ におけるC層以下の生徒を
	⑧-2 定期考査の3週間前に「範囲表」と逆算TQを配布し、定期考査に対する取り組みへの早期の意識づけを図っていく。	5%以下にする。
[学年別指導プログラム] ①アサーティブな人間関係構築 のための指導	[中学2年] ①昨年の「人権・差別」に関する「道徳」の授業を、今年は、「命」に関する学びに絡め、関連動画の視聴や各種資料を用いてALの授業を実施する。春季課題に「自分史作成」を取り入れ、ここまでの歩みを振り返らせることで、まず「自分を大切にすること」、ひいては学校行事の「自己発見と共生の旅」を通じて「他者を大切にすること」に気づかせていく。	[中学2年] ①②自他を尊重する 道徳観を「共生の 旅」のプレゼンを通 して判断する。ま た、道徳・探求・ Li Pの年間計画を明 示し、組織的な教 育・指導を実践して 効果を図る。評価は 日頃から担任等と情 報を交換しておく。
②メタ認知能力向上のための指導	②TQノートの習慣化から、「中期的なTQ」(逆算TQ)をたてさせる段階へと移行させ、記入したものを学びの向上へと繋げるレベルに進化させる。そのために、ノートの指導とチェックを強化し、マンダラートなどを駆使して、中長期計画の策定とその遂行(目標設定と進捗管理など)などの指導を行う。	②逆算TQとは別に 考査前にシートを配付し、目標や振り返りを重視する形式のシートにする。その記載内容の質的向上の程度を診断する。
③その他の生徒活動の学年独自 施策(発達障害・いじめ対応・ ボランティアなどを含む)	③-1 発達障害の生徒の絡むトラブルには、「『ひだまり』と連係→保護者と情報共有→対処法→教員間で 共有」をルーティン化し、スピード感をもって対応	③多様化するトラブルの原因と生徒の資質に教員団が理解を

する。 ③-2 学年を超えた生徒活動委員会で学年の問題発生 の事例を随時一定の書式で報告し、全校の問題発生 事例集を積み上げていく動きを示す。 ③-3 ボランティア活動は、行事委が Classi に紹介されている「課外活動」から、中学段階で推奨できるものをピックアップしてこまめに紹介し、必要に応じて年度末に表彰する。 ③-4 家族の中での役割を考えさせる「ワークシェ
事例集を積み上げていく動きを示す。 ③-3 ボランティア活動は、行事委が Classi に紹介されている「課外活動」から、中学段階で推奨できるものをピックアップしてこまめに紹介し、必要に応じて年度末に表彰する。
③-3 ボランティア活動は、行事委が Classi に紹介さ 伴う負担感の軽減に れている「課外活動」から、中学段階で推奨できる 資するための事例集 ものをピックアップしてこまめに紹介し、必要に応 を作成する。その端 じて年度末に表彰する。 緒を残す。
れている「課外活動」から、中学段階で推奨できる 資するための事例集 ものをピックアップしてこまめに紹介し、必要に応 を作成する。その端 じて年度末に表彰する。 緒を残す。
ものをピックアップしてこまめに紹介し、必要に応 を作成する。その端 じて年度末に表彰する。 緒を残す。
じて年度末に表彰する。 緒を残す。
3-4 家族の中での役割を考えさせる「ワークシェ
ア」も継続し、クラスや学校の中における自らの役
割へと視点を広げさせていく。
④スタディサプリの活用のため
の指導
イ. 到達度テスト する。 めるようになる。他
ウ. スタサプEの活用 イ 年数回おこなう「到達度テスト」の結果をふま 方、中下位層が、苦
エ. 進学実績向上のための具体   え、連動課題の視聴を「長期休業中の取り組み」   手意識やつまずきを
策の一つに加える。解消、学年全体が一
ウ 昨年同様、スタサプEを「長期休業中の取り組 つの集団として意欲
み」の一つとして活用し、アナライズセンターと的に臨むことができ
連係して優秀者は表彰するシステムを継続する。 るようになる。(まず
エ 1st ステージでは高い能力を持った学年生徒集 S 特選の英数国 GTZ B
団を、一人の落伍者も出さず、なお一層のボトム ランク層ゼロを目標
アップを図る。具体的には、英数国のGTZBラン とする。)
ク層ゼロ(=全員Aランク以上)という高い目標
を達成したい。そのための効果的な施策を学年会
で適時に検討し、随時実践していく。具体的な施 策は生徒の成績や成績分布、自習力の状況等を分
「東は主体の放復で放復方和、自首力の人が寺を方   析しながら5月以降に具体化する。
⑤mikan活用のための指導   ⑤朝の教室環境の規律を調え、mikanへの真剣な取り   ⑤英検3級の合格率
組みを促す。 85%を目標とする。
⑥自習室利用促進に向けた指導   ⑥利用をあらゆる機会に促す。年度末にはアナライズ   ⑥学年全体で自習室
センターと連係して、利用回数上位者を表彰する。を有効活用できる集
利用回数が1桁台にとどまった生徒の学習状況を学 団になっている。
年で注視していく。
⑦ポートフォリオ計画   ⑦学校行事のみならず、「学年の取り組み」に関して   ⑦学年においてポー
も、ポートフォリオを作成させ、日常的に振り返りトフォリオを活用で
をおこなう学年を目指す。ポートフォリオを使っしきている。
て、「よりふさわしい語彙を選ぶ力」「より伝わりや
すい文章を作る力」をつけることを意識させる。
⑧その他の学習・進路指導の学 │ ⑧-1 ボキャコンを定期的に実施する。また、新たに │ ⑧-13 種類の学年統一 年独自施策(研究論文・対外コ │ 古文単語、現代文単語についても導入する。 │ のテストの実施結果
年独自施策(研究論文・対外コ   古文単語、現代文単語についても導入する。
が多い生徒には保護者にも改善を促していく。 する。
[学年別指導プログラム] <b>[中学3年]</b> [中 <b>3学年</b> ]
①アサーティブな人間関係構築 ①、②、③について ①②③TQノートで
のための指導 これまでの指導を前提に、今年度はリフレクション 日々のリフレクショ

	) Ha la 2 2 and 10 and	
②メタ認知能力向上のための指	に焦点をあてる。リフレクションでは「認知の4点	ンの変化を期待する
- 第一のサウルケンスチャンケンス	セット」を活用する。人の「意見」の背景には、そ	が、まずは、行事後
③その他の生徒活動の学年独自	の人の固有の「経験」や「感情」や「価値観」とい	のポートフォリオと
施策(発達障害・いじめ対応・	うものが存在し、この4点を内的に照射すること	面談で確認する。年
ボランティアなどを含む)	で、自己理解も他者理解も深まるという。このリフ	間3回の面談の結果
	レクションを習得させることで、相手の感情につい ても俯瞰して理解できることを目指す。具体的に	(認知の4点セット
		の使用)は、学期最
	は、ステージアップ合宿で認知の4点セットのスキャスなが、エアデ教です。この4点セットな	後の学年会議で担任
	ルを学ぶ。田面談でもこの4点セットを意識した はいこれたまなける さな まだがなの数号目の理	より報告させ、その
	振り返りを実施する。また、まず学年の教員団の理解し、世間な得る。	状況を学年内で共有 する。
(ハフカデ・井づ川の)が田のため	解と共感を得る。 ④到達度テストと再指導を連動させる。	9 0。   ④連動型再指導が年
<ul><li>④スタディサプリの活用のための指導</li></ul>	色別達度/<トと再指导を運動させる。   6月到達度テスト→1 学期再指導	に2回実施されてい
ア. 再指導の形式	1月到達度テスト→3学期再指導	る。スタサプ視聴が
イ. 到達度テスト   ウ. スタサプ E の活用	再指導は、スタサブ視聴と教科の指導、面談の3つ た同味に行る。マナライブセンターの控力は得る	20名以内、教科の指
	を同時に行う。アナライズセンターの協力も得る。 	導が40名程度を目標
エ. 進学実績向上のための具体 策		とする。下位二番手 層への教員の指導が
N		年間通して継続され
		午间通じ、極続され
		CV 3AACC 3人   る。
   ⑤自習室利用促進に向けた指導	   ⑤teams を利用したオンライン自習室を継続する。	る。   ⑤継続できたかを目
	③tealls を利用したオンプイン自自主を配がする。	標とする。
   ⑥ポートフォリオ計画	   ⑥スポ大、藍桐祭、合唱コン、修学旅行、LiP 大会で	徐こする。   ⑥認知の4点セット
	行う。定型文主体から自由記述を増やす方向へ進め	による振り返りの要
	117。 定至文主体がら自由記述を増やすが同く達める。	素も含まれているも
	<i>√</i> √₀	のになっているか。
		この行事以外にもポ
		ートフォリオを実施
		し、年間7回以上、
		振り返りの機会を与
		える。また、担任は
		その提出状況および
		その内容を確認す
		る。
(7)その他の学習・進路指導の学	   ⑦医学部進学の卒業生を集めて、「等々力流医学部受	⑦2 学期以降に実施、
年独自施策(研究論文・対外コ	験のすすめ(仮)」の実現を目指す。	他学年生徒も参加で
ンテスト参加促進などを含む)		きる企画にする。今
		年度は、等々力生と
		して医学部受験する
		ことのイメージを持
		つことを目的とし、
		実際の志望者数増加
		は次年度以降の目標
		とする。
[学年別指導プログラム]	[高校1年]	[高校1年]
①アサーティブな人間関係構築	①藍桐祭での活用の場合、準備前に「実施の目的」だ	①藍桐祭の「目的」
のための指導	けでなく、藍桐祭後にクラスをどのように変化させ	と「目標」を各クラ
	たいか「目標」をたてさせる。クラス内に複数のグ	スで設定し振り返り

	ループ(役割)を作り、リーダー、フォロワーとも にアサーティブな関係を意識させ行動させる。具体 的なリーダー指導を学年会で共有・徹底させる。	まで行う。簡潔な目標から経過・振り返りまでのシートを作成し、各行事のリーダーに配付し提出を求める。
②メタ認知能力向上のための指導	②-1日々の生徒対応の際は常に生徒をどのように成長させていくかのゴールイメージを持つ。教員との対話により「振り返り」→「内省」→「気づき」→「行動変容」させる。そのために、TQノーの意義を再確認する。 ②-2 逆算 TQシートを活用し、ゴールに対し計画を立て、進捗を確認し、成果から振り返り、何が良かったのか、悪かったのかを導き出し、次に向かう戦略を立て自ら行動させる。	②毎日TQノートを回収し、コメントや記載状況を基にしたとり記載状況を基にしたのに立て、日本のでは、1年をでは、1年をでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年のでは、1年の
③その他の生徒活動の学年独自 施策(発達障害・いじめ対応・ ボランティアなどを含む)	③ボランティアをはじめ他流試合の紹介を Teams で生徒に配信およびオープンスペースに掲示。積極的な参加を促す。紹介は『GW前・夏・冬・春季休業前』を目途に行う。紹介内容は「研究論文」のフィールドワークと紐づくことも意識する。	③生徒の参加率 30% を達成できた。
<ul><li>④スタディサプリの活用のための指導</li><li>ア. 再指導の形式</li><li>イ. 到達度テストウ. スタサプEの活用</li><li>エ. 進学実績向上のための具体策</li></ul>	④朝の数学小テストの再復習のための「数学確認テスト」を考査2週間程度前に実施し、不合格者にはスタディサプリの視聴講座を作成し視聴させる。 ④-ウ週4回の朝10分のスタサプEの取り組みを徹底するために、教室への入室は8:25を目安で入室し、全員が落ち着いた形で8:30を迎えられるようにする。	<ul><li>④各考査前のコーチング対象は学年の</li><li>15%以下とする。</li></ul>
⑤自習室利用促進に向けた指導	⑤毎月の利用データを学年教員に共有。HRや面談の際に利用促進の話題として活用する。	⑤全校の使用率のう ち高1が占める割合 を20%以上とする。
⑥ポートフォリオ計画	⑥学年で行事を中心に『年間ポートフォリオ計画』を 作成。計画の進捗を管理する。	⑥ポートフォリオの 担当者を決め、行事 後の入力をルーティ ン化させる。
⑦その他の学習・進路指導の学年独自施策(研究論文・対外コンテスト参加促進などを含む)	<ul><li>⑦-1 定期考査の3週間前に「範囲表」と逆算TQを配布し、定期考査に対する取り組みへの早期の意識づけを図っていく。</li><li>⑦-2 研究論文ではトモノカイと連携。ワークシートの作り込み、オンラインメンタリング、メンターセ</li></ul>	⑦-1 GTZ における S3 以上の生徒を 30%以 上。A3 以下の生徒を 20%以下にする。 ⑦-2 取り組んだ全生 徒が論文完成。事後
	ッションなどを通じて論文を完成へと導く。 ⑦-3 GL クラスではユネスコとの連携事業『アートマ	のアンケートで満足 度 80%超えを達成す る。 ⑦-3 事後アンケート

	ノル『た生性・コウフェウ人日本生性・ナスペルギ	☆
	イル』を実施。ユネスコや合同で実施するベルギー	で満足度80%超えを
	との学校間連携を密にとり社会問題解決に向けた国際的視点を養うことでグローバルリーダー育成の一	達成する。
	助とする。	
   「学年別指導プログラム]	<u>切とりる。</u>   <b>[高校2年</b> ]	 [高校2年]
「子牛別指導ノログノム」   ①アサーティブな人間関係構築	L間仪 2 年]   ①-1 アサーティブな人間関係の構築のために日頃か	[前文2千]   ①クラスでの決め事
のための指導	ら全ての事象に対し、「言った責任と言わなかった	の場面でこれらのこ
V)/C0)V/III <del>II</del>	責任」の両面を意識させる指導をしていく。	とを意識して全員が
	貝口」が同国で忠戦では311年でしていい。	考えを言い合えるよ
		うになっている。
2メタ認知能力向上のための指	   ②校内で行われる取り組みに対し、都度ポートフォリ	- プロなっている。 - ②担任が毎日 TQ ノー
道 (1)	オに記録として残させる。概ね月に1回程度を目途	トを確認できてい
<del></del>	とする。考査の振り返りは別途ロイロを使って行	る。ポートフォリオ
	う。また日々の学習、生活に対する振り返りとして	課題を全員が提出で
	TQノートの毎日の記入と確認を実践していく。	きている。
③その他の生徒活動の学年独自	③コロナ規制の緩和により対外ボランティア活動を進	③各クラス 5~10 名
施策(発達障害・いじめ対応・	めていく。ボランティア情報を学年掲示板に投稿す	のボランティア活動
ボランティアなどを含む)	ることで活動意欲を刺激し活動機会を増やしてい	者がいる。
	<	, 5
④スタディサプリの活用のため	<ul><li>④スタディサプリは、大まかな取り組み目標を立てて</li></ul>	④年間を通して生徒
の指導	生徒に周知する。課題や提出課題とはしない。生徒	が自学自習教材とし
ア. 再指導の形式	各自が自学自習用として活用できるように誘導す	て活用できている。
イ. 到達度テスト	<b>る</b> 。	
ウ. スタサプ E の活用		
エ. 進学実績向上のための具体		
策		
⑤自習室利用促進に向けた指導	⑤昨年度の進路実績と自習室利用率の相関関係を示	⑤2022 年度の利用率
	し、生徒へ周知することで、自習室利用率を上げる	より20%増えている。
	仕掛けを作る。	©===== 1° 1 11
⑥ポートフォリオ計画	⑥各行事や生徒の取り組み毎に課題配信しポートフォールナー変し、バスススススカー	⑥課題ポートフォリ
	リオへ落とし込みをさせる。またそれ以外でも自分 の活動について自由記述を呼び掛けていく。	オは全員が提出でき
	7万里ができないで日田記述を呼び掛けていて。	ている。自由記述を する生徒がいる。
(7)その他の学習・進路指導の学	   ⑦-1 学びあいチャレンジ塾の実施	(7)-1 学び合いチャレ
年独自施策(研究論文・対外コ	昨年に引き続き今年度は5科目に広げ、放課後週1	ンジ塾は予定回数実
ンテスト参加促進などを含む)	~2回実施予定。問題提供はするが、あくまでも生	施できている。
	徒の主体的な学びあいを大切に運営する。	72 TC T
	⑦-2 研究論文の文集化	⑦-2 生徒用論文集の
	1年かけて書き上げた研究論文を冊子にまとめ、広	他に広報活動用の論
	報活動にいかされるようなものとなっている。	文ができている。
[学年別指導プログラム]	[高校3年]	[高校3年]
①メタ認知能力向上のための指	①担任による進路面談は反転面談(生徒による進路計	①反転面談が各生徒
導	画のプレゼン)とする。志望大学・学部・志望理由	につき1回以上実施
	(キャリアビジョン)・難易度・現在の自分の偏差	されている。
	値・その差を埋める方法(何をどうやって)等の内容	
	を含むビジョンを説明する。教師・保護者は聞く側	
	に回り、従来の面談のあり方を反転させる。三者面	
   ②自習室利用促進に向けた指導	談では保護者の前で生徒に語らせる。 ②自学自習力こそ合格実績向上のポイントであり、議	②③アナライズ面
②自自主型用促進に同じた指導	ビロナロ日ハーでロ俗天順円上ツかイントでのり、硪	<b>少</b> 砂/ / / 1 / 1 / 1   1   1   1   1   1   1

	論や話し合う空気が新傾向の考える問題への対策と	談、ポートフォリ
	なることを強く訴える。自習室利用状況のポートフ	才、自習室過去問特
	オリオで可視化し適宜利用を促す。また、自習室過	設ブースの実施状況
	去問特設ブースなどの企画を提案していく。	による。
③その他の学習・進路指導の学	③-1 生徒のニーズに合った講座(放課後特訓講座、	③講座計画の告知の
年独自施策	夏季・冬季登校講座、A・B・Cターム)を早い段	状況による。
	階で具体的に計画し、告知する。学年の進学実績目	
	標値達成のもとに戦略的にターゲットを絞った魅力	
	ある講座内容を提示する。	
	③-2 特訓講座や本校主催の各種進学講座への参加率	
	の目標値を80%とする。少なくとも昨年度実績レ	
	べいは維持する。	
	③-3 アナライズ面談を実施し、特に下位者対策として	
	基礎力充実のスタサブ視聴課題を提示するか、視聴	
	のための講座を開くかする。アナライズセンターと	
	相談し最大60名までは実施可能とする。	